

学習の成果を発表。なかよし交流会

2月25日、社会福祉センターでなかよし交流会が開催され、児童や保護者、学校関係者約130人が参加。栗須小学校の発表したオリジナルの英語劇では、他校の児童も参加し、会場を大いに盛り上げました。



火災予防に消防団がパレード

2月27日、消防団による防火パレードが行われました。空気が乾燥して火災が発生しやすい時期に合わせ、防火意識の啓発を目的に開催。分団ごとに各地区へ分かれ、防火を呼びかけ、市内を巡回しました。



小林 Jr アスリートクラブが上位入賞

昨年12月に宮崎市で開催されたクロスカンントリー大会で、小林 Jr アスリートクラブが男女上位3名の合計タイムで2位の成績を取めました。同クラブは3月1日、市長を表敬訪問し、成果を報告しました。



卒業を前に小林中でお別れおはなし会

3月11日、小林中でお別れお話会が開催されました。朝の読み聞かせを行う小林子ども遊学会が主催。卒業を控えた3年生に、パネル絵本朗読や永久津保育園児のかわいらしいダンスが披露されました。



中園良子さんがパラグアイへ出発

3月15日、シニア海外ボランティアでパラグアイへ派遣される中園良子さんが出発を前に市長を表敬訪問しました。派遣期間は2年間で、日本文化の普及に努める予定。中園さんは「これまでの経験を活かし、多くの笑顔と出会いたい」と話していました。



出発式で原田利男消防長から「緊急消防援助隊は西諸広域消防で初のこと。自信と勇気、誇りを持って活動してほしい」と激励を受ける隊員。

西諸広域消防が東日本大震災被災地で救助活動

3月14日、東日本大震災の被災地に西諸広域消防の隊員8人が緊急消防援助隊として出発しました。同隊は、被害が甚大だった岩手県の陸前高田市で救助活動を展開。21日に帰還し、前原泰典隊長は「悲惨な状況で余震も凄かった。この経験を今後の活動に活かしたい」と話していました。



式典では、国際ソロプチミスト小林から市立図書館へ平湯モデルの児童用椅子16脚が寄贈されました。

国際ソロプチミスト小林が認証20周年を迎える

3月14日、国際ソロプチミスト小林の認証20周年記念式典が開催されました。同組織は平成3年に認証され、会員数は現在23人。式典には県内外の関係団体など138人が出席し、迫田克子会長は「女性と女兒の生活向上のために情勢に応じた活動を今後も展開したい」と挨拶しました。

地域社会と共に奉仕続けてロータリークラブ50周年

3月12日、小林ロータリークラブ50周年記念式典が開催されました。同クラブは、昭和36年に県内7番目のクラブとして会員26名から始動。今西藤利会長は「皆様のご指導とご支援のおかげ。更なる60周年に向け、地域社会と共に奉仕の理想を目指していきたい」と挨拶しました。



記念事業としてコスモス賞を創設。霧島おむすび自然学校と小林秀峰高等学校男子新体操部、細野青年団に賞が贈られました。

いきいきとした地域づくりを

3月13日、小林市協働のまちづくり市民フォーラムが開催されました。活動報告会には6団体が参加。鹿屋市柳谷自治公民館長豊重哲郎さんを講師として『地域再生～行政に頼らない「むら」おこし』と題した講演もあり、奇跡の集落と言われた地域再生の事例を紹介。「人を動かすのは感動。地域の発展には文化向上が不可欠です」と話していました。



柳谷集落では、土着菌を使った土作りや焼酎づくりなどの商品開発、芸術家の呼び込み等、独自の工夫で福祉や教育を充実させています。



展示されているガラス製小玉は、その多さや県内では他に墓から出土した事例がないことから、異色の事例として注目される資料です。

重要遺物が地元で初公開 弥生時代の首長墓展

3月11日、野尻町歴史民俗資料館の常設展示がリニューアルされました。同時に企画展として、県立博物館所蔵の大萩遺跡で出土した遺物を地元では初公開。市文化財保存調査委員会の齊藤勉委員長は「県が誇る重要な文化財。ぜひ足を運んで郷土の歴史に触れてほしい」と話していました。

協働のまちづくり市民フォーラム



▼活動報告会参加団体

- ◆平成22年度小林元気なまちづくり支援補助金交付団体>小林市楽しい家庭菜園講座研究会・助け合いネットたんぼぼ・小林元気クラブ
- ◆平成22年度小林市NPOパートナーシップ創造事業補助金交付団体>北きりしま田舎物語推進協議会・NPO法人エコワールドきりしま
- ◆小林市協働のまちづくり市民フォーラム実行委員会>小林市協働のまちづくり市民会議